



こころMoj i 作家 浦上秀樹 ひと文字のキセキ展

■会期：2020年2月26日（水）～3月3日（火）

■会場：6階（中央B7）＝アート・ギャラリー

※最終日3月3日（火）は、当会場のみ午後4時に閉場いたします。

西武池袋本店アート・ギャラリーでは、漢字に、別の意味を持つひらがなを組み合わせ、新たなメッセージを生み出すアート作品「こころMoj i」作家、浦上秀樹さんの展覧会を開催します。

1973年2月9日に埼玉県上尾市で生まれた浦上さんは、21歳の時、筋肉が徐々に減少していく進行性の病気、遠位型（えんいがた）ミオパチーを発症するも、その後独学で「こころ Moji」の制作を始め、動かなくなった手の代わりに口に筆をくわえ、数々の作品を制作し続けています。文字に込められたメッセージや病に負けることなくチャレンジし続ける姿は幅広い世代から共感を得ています。

浦上さんの描く「こころ Moji」とは、漢字本来の持つ意味とは別に、ひらがなで描いた別のメッセージを漢字の中に入れ、もう一つの意味を持たせているのが特徴です。隠れている「ひらがな探し」と、作品に沿った「解説（こころ）」を楽しんでいただくアート作品です。



くわえて、障がい者スポーツを撮影し、その魅力を発信されている写真家 清水一二さんと浦上さんによる「パラリンピックフォト」コラボ作品（写真とこころ文字を組み合わせたパネル作品）も4点、展示します。（サイズ900×900mm）

会期中、会場内で、浦上さんによる原画作成のアートパフォーマンスを実施、目の前で作品が生まれる様子をご覧ください。



【展示】

2010年～2020年にかけて制作された、A3、A4サイズの原画、リトグラフ合わせて約30点を展示します。

【原画作成のアートパフォーマンス】

■日時：2月26日（水）・27日（木）・29日（土）、3月1日（日）・3日（火）

*各日 [1] 午後1時から、[2] 午後3時から

【物販】

墨原画、彩色原画、リトグラフ、ネオシルクスクリーン作品、カード

★「ひと文字のキセキ2」（PHP研究所）を会場にて限定で先行販売いたします。価格：1320円（税込）

[展示作品例]



『感謝』～すべてののであいといのちのすばらしさ～

私は、この“漢字”を“ひらがな”で描いてみたいと思いました。

身体は不自由…、それでも“こころ”は自由でいられる。

“こころ Moji” は、元気の源であり、出逢いの種。

たった一文字で、自由な世界を表現できます。

たった一文字に、自分の人生が込められます。

たった一文字が、自分自身そのものなのです。

今、この瞬間も、すべての出逢いと命の素晴らしさに感謝して…

サイズ：257×364mm（墨）

『日本』～わびさび～

わびは「侘び」と書き、置かれている状況を悲観することなく、むしろ楽しむとする精神的な豊かさを表した言葉。さびは「寂び」と書き、古さや静けさ、枯れたものから趣が感じられることを表した言葉。

わびさびは、身近な自然から建築、茶道、文学に至るまで、幅広い分野で共有されてきた感覚であり、自身の感情が静かに揺れ動いた時などに用いる言葉です。伝統ある日本文化の中で日本人独特の趣ある感性や美意識を表現した「和のこころ」なのです

サイズ：420×297mm（墨）



『五輪』～けいぞくはちからなり～

自分を信じ抜いた者だけが世界を変える

サイズ：100×148mm（水彩）



『虹』～ゆめいろ～

人は悩むほどに自分らしくなります。

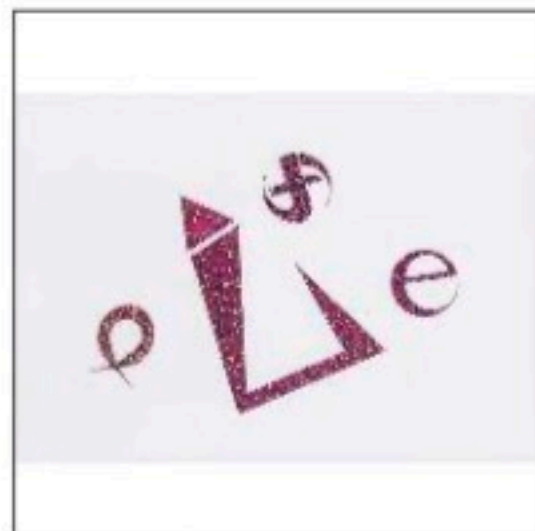
悲しみは魂にとってのクスリ。

夢を持った瞬間、どんなにつらかった経験も必要な過去になります。

雨（涙）上がりの虹はきっと夢へとつながる架橋なのでしょう

サイズ：297×420mm

（デジタルリトグラフ+シルクスクリーン）



『心』～Life～

ふだんからどこに意識を集中させているかが大事なことで、日常的に考えていることが自分の人生をつかっていくもの。

心が人生を表していて、心に何が入っているかで人生は変わってくるものだと思います。性格とは、心の習慣

サイズ：210×297mm

（水彩）